



奈良
祭時記
Vol. 31

県内の無形民俗
文化財の保存活動
を「紹介！」

しら いし
白石の双盤念仏
そう ばん ねん ぶつ

奈良市 興善寺

双盤鉦を用いた念仏行事

興善寺は融通念佛宗の寺院であり、白石の双盤念仏は、その興善寺の檀家有志の鉦講と呼ばれる人たちによって行われています。双盤念仏は直径50cmほどの大きな双盤鉦を叩きながら、「南無阿弥陀仏」の名号を、息を長く引き伸ばすように唱えるものです。本尊に向かって2つの鉦座の上に双盤鉦が置かれ、双盤の音頭を取るカシラ(頭)は左側の鉦、受け手のオトが右側の鉦を担当します。また、法要の際は堂内のおろそくの番、葬具の管理などの裏方の仕事も鉦講が担っています。

十夜に響く双盤念仏

白石の双盤念仏は、8月15日の盂蘭盆会や24日の地藏会式でも行われますが、11月の十夜法要が最も盛大な行事で、多くの檀家が訪れます。十夜法要は、主に浄土宗や融通念佛宗の寺院で、旧暦の10月10日前後の10日間に行う行事であり、檀家が集まって念仏を唱えながら、ご先祖さまへの供養や秋の収穫に感謝します。興善寺の十夜法要は11月1日から10日まで



享保十(1725)年銘の双盤鉦

住職が毎日勤行を営み、それとは別に11月2・4・6・8・10日に鉦講による双盤念仏が行われます。11月10日の最後の十夜当日、まず18時頃に双盤念仏が叩かれ、その後、鉦講をはじめ関係者

奈良市都祁白石町にある興善寺で行われる伝統行事です。興善寺住職の田中さんの他、檀家有志の鉦講の皆さんにお話を伺いました。

何十年、何百年先を見据えて

20〜30年前は10人ほどいた鉦講も、今では5人まで減少し、高齢化も課題となっています。そこで、パンフレットを作成して檀家さんや寺にお参りに来られた方に配布したり、県内外のイベントに積極的に出演したりするなど、まずは白石の双盤念仏を知っていただく取り組みを行っています。今まで何百年も続いていきますので、この先100年・200年後と継承していくために、地域内外にかかわらず若い方を中心に鉦講に入ってください、共に白石の双盤念仏を盛り上げていきたいと思っています。



左から村田さん、北森耕蔵さん、北森勝巳さん、興善寺住職 田中さん

白石の双盤念仏
11月10日他
〒奈良市都祁白石町2518



☎無形民俗文化財については、県文化財保存課 ☎0742-27-8124 FAX0742-27-5386